

サーキット・ライダー2005年 7、8月号

まずは教育伝道から

主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも論しをも侮る。わが子よ、父の教えに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。

箴言 1：7-8.

6月は合同メソジスト教団総会から始まり、結婚式、野外礼拝、東京築地聖路加病院の名誉院長、日野原重明博士の講演会、ビリー・グラハム牧師のクルセード集会と実に有意義な行事が続きました。6月号で結婚式、父の日礼拝について書かせていただきましたが、式の為に祈り、お祝いして下さった皆様に心より感謝いたします。さて今回は6月後半にあった日野原重明医師の講演会とビリー・グラハム師のクルセードについて書きたいと思います。

日野原重明医師は最近NHKの人気番組「プロジェクトX」でも取り上げられ、以前より高かった名声が更に高まりました。日野原医師は戦時中の東京大空襲の時に多くの人が病院に収容できず命を落としていった悲劇を目の当たりにしてから医者として病院の役割、使命を深く考え、非常時であっても多くの人を収容、治療できる病院を作りたいという願いを持ち続けました。そしてとうとうその願いを叶えるべく聖路加病院院長時代の晩年90年代初頭に莫大な建設費を投じて東京築地にそびえ立つ巨大な病院を作る企画を押し通しました。周囲からは「そんな無駄遣いを！」とかなり批判されたようです。しかし日野原医師の「より多くの患者を収容することができる病院」は95年のオーム・サリン事件の時にその使命を担うことができました。聖路加病院は礼拝、祈祷の場である「チャペル」や普通の廊下にも酸素吸入器具や医療計器の取り付け口が作られており、サリンで命の危機にさらされていた被害者を東京中のどこの病院よりも多く収容して手当てをすることができました。そこに流れるものは「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」(レビ 19：18)というクリスチャンの愛であり信仰でした。因みに聖路加(ルカ)国際病院のルカは聖書のルカによる福音書から来ています。言い伝えでは福音書を書いたルカは医者だったとされており、多くの病人を救ったところから、この名前が付けられました。

この他にも日本中を震撼させた日航機ハイジャック事件に同上した経験や禅導師鈴木大拙和尚や著名人の最後を看取ったことなど、興味深い経験が多い日野原医師ですが、今回の講演やその著書から感じることは、日野原医師の根底にはいつも「クリスチャンとして人を愛するとは如何にあるべきか？」という問いかけがあることでした。その経験から「人生、特に老後をどのように生きるか」を語られましたが、同時に世界平和や貧困を無くすには「若いうちから教えること」と教育の大切さも説かれました。私はこの教育感にすごく同感し嬉しく拝聴しました。日野原医師は「いくら戦争反対!」「貧困を無くせ!」と叫んだりデモをしても戦争や貧困は実際防げなかったが、幼い魂に人を愛すること=仲良くする、相手を大切にすることを教え続ければ必ず平和で貧困の無い世の中が来る。」と力説しましたが、正にこれは私が神学校に進んだ理由で、今でもそう確信しています。

日野原医師の講演会から1週間後、ビリー・グラハム牧師のクルセードに行きました。会場案内の御奉仕をさせて頂きつつ、グラハム師のメッセージを聴きました。往年のヴァイタリティーは既に無く、「あれ?」と思うほど短い説教でしたが、非常にシンプルで強いメッセージでした。若い時から一貫して言い続けた「キリストによる魂の救い」を訴え、「もしあなたが、今、この時召されたら、あなたは神の前に立つ準備ができていますか?」と8万人以上も集まった会衆に語り掛けました。「まだ信じていない人も、「イエス様を信じます。」と言えば、直ぐに救われます。どうぞイエス様を受け入れて下さい。」と最後に呼びかけた時には千人以上の人々が前に進み出ました。ベトナム戦争時代にはリベラルなグループから批判を受けたりもしましたが、グラハム師は一貫して、人々の魂の救い訴え、48年間大衆伝道に携わってきました。そこにあるのはやはり隣人愛であり、キリストの教えでした。

この二つの大きなイベントから学んだことは沢山ありますが、「魂の救い」がもっともっと伝道の中心であるべきこと、「隣人への愛」をもっと強める、その為に「祈る」こと、若いうち、子供のうちから「福音の種蒔きをする」という原点に帰ることでした。7、8月は夏休みで礼拝以外はお休みですが、この間に霊気を十分養い、学びそびれていることを学び、9月から始まる新学期、より多くの隣人の為にお役に立てるように自分を備えようと思いました。皆さんも良い夏をお迎え下さい。 吉松 純

***Jr.教会（教会学校）7、8月は夏休みですが、自主参加プログラム（V. P）があります。**

***祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。**

***聖日予定：礼拝時間は午後4時からです。**

7月 3日：自由祈禱会、聖餐式礼拝、V. P：自由

10日：自由祈禱会、礼拝、V. P：畑作業。

17日：自由祈禱会、礼拝、V. P：B. Kナイト（お小遣い3～5ドル持参）

24日：自由祈禱会、礼拝、V. P：畑作業、切手仕分け

31日：自由祈禱会、礼拝、V. P：ビデオ

8月 7日：自由祈禱会、聖餐式礼拝、V. P. パン作り

14日：自由祈禱会、礼拝、V. P：切手仕分け

21日：自由祈禱会、礼拝、V. P：タコBe11ナイト（お小遣い3～5ドル持参）

28日：自由祈禱会、礼拝、V. P：畑作業、収穫

9月 4日：自由祈禱会、聖餐式礼拝、V. P：収穫

11日：自由祈禱会、Jr. 教会新学期スタート、礼拝

***行事予定と報告**

*7月13日（水）アメリカ人の夏季教会学校のプログラムで自由の女神、エリス島を見学に行きます。

午前8時30分、教会駐車場集合。自由の女神ではビル・マウワー氏（パークリッジ教会員）が案内してくれます。大人11ドル50銭と、子供〔1二歳以下〕4ドル50銭とです。申し込みは吉松牧師まで。

*7月27日（水）パターソンにある社会福祉団体CUMAC/ECHO見学。毎日パターソンの低所得住民に食事を1000食～1500食配給している合同メソジストの団体です。集合時間TBA。

*8月 6日（土）ピクニック。パークリッジGlenにて沢登り。教会駐車場午前10時集合。水にぬれても良い服装、運動靴、履き替えの靴、昼食をご用意ください。

***御協力お願い致します。**

*引き続きインドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金をしています。ご協力お願いします。

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）に送ります。JOCSは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供の救援団体HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）にもご協力下さい。

*一昨年よりケニヤの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

*パターソンのSt. Philip 伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

***これらの献金のあて先は UMC-JA とし、寄付のあて先を Note に記してください。**

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾タカエ姉（201）802-1769 takae17A@AOL.com